

茨城県北ジオパーク運営へのfacebookの活用 Utilization of facebook for management of North Ibaraki Geopark

細井 淳^{1*}, 天野 一男², 茨城大学地質情報活用プロジェクトチーム³

Jun Hosoi^{1*}, Kazuo Amano², Ibaraki University geological information utilizing project team³

¹ 茨城大学大学院理工学研究科, ² 茨城大学理学部, ³ 茨城大学地質情報活用プロジェクト

¹Graduate School of Science and Engineering, Ibaraki University, ²Faculty of Science, Ibaraki University, ³Ibaraki University geological information utilizing project

背景

茨城県北ジオパークはこれまでソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を用い、不特定多数の人と双方向のコミュニケーションを通じた情報発信を多く行ってきた (齊藤ほか, 2010; 伊藤ほか, 2011, 2012; 天野ほか, 2012)。これらは主に外部へ向けた茨城県北ジオパークの魅力などの情報発信が目的であり、茨城県北ジオパークの関係者と非関係者のコミュニケーションである。一方、facebook や mixi などの SNS はグループを作成し特定の人達だけがコミュニケーション可能な機能もある。

茨城県北ジオパーク推進協議会にはオブザーバーを含めて全 10 市町村が加入しており、その範囲は行政区分に基づけば約 2100km² に及ぶ広域なジオパークである。そのため協議会の関連委員が一同に会しての意見交換が困難なことが多かった。ジオパーク事業を活発に展開するために、2012 年 9 月に実務組織としてジオツアー、広報、商品開発、インタープリターの 4 つのワーキンググループ (WG) が設立された。意見交換のツールとして facebook を導入した。

facebook における WG の組織体制

WG はグループごとに若干異なるが、主に各自治体の適任者と運営委員長、事務局、各 WG リーダー、委員長指名者から構成される。話し合いはメンバー全員で行われるが、その中でも自治体関係者は決定事項の遂行、運営委員長と事務局は活動の掌握と事務作業、各 WG 代表者が WG 間における双方向の情報共有を行なっている。これに委員長指名者枠で茨城大学地質情報活用プロジェクトメンバーも参加しており、学術的なサポートを行っている。

facebook の機能とその活用方法

主な facebook グループの機能と活用方法は以下の通りである。

- ・通常の投稿: WG 全体への報告と簡単な議論。写真や図も載せられるので、具体的な話が可能である。
- ・選択肢付き質問: WG メンバーの意見を聞く。
- ・ファイル: 議事録の記録、活動記録などを保存。ファイルをアップロードすることで、メンバー全員がいつでも見ることができる形で残すことができる。
- ・イベント: 直接会って話し合いをする時などのイベントに招待し、出欠をとることができる。イベントの情報発信とその出欠の意思表示が簡単に行うことが可能である。

facebook 上での WG の現状

2013 年 1 月末現在、特にインタープリター WG を中心に各 WG のメンバーが積極的に facebook に投稿している。従来の会議やメールによる意見交換よりも遥かに多くの議論、情報共有が行われており、facebook を活用した WG の運営は成功と言える。また facebook にはこれら WG のグループだけでなく、個々のインタープリターのスキルアップと相互情報交換を目的としたインタープリターだけのグループも作成した。こちらでは活発にインタープリター同士で茨城県北ジオパークに関する情報を相互に紹介しあっている他、インタープリター同士での質疑応答、ジオに関する疑問や質問に対する茨城大学地質情報活用プロジェクトの学術面のサポートなど多くのコミュニケーションが行われている。

現在は各ワーキンググループそしてインタープリターのグループがほぼ独立した活動を行なっている。今後はこれら各グループ間における連携を図ることが課題である。

キーワード: SNS, facebook, ジオパーク, 茨城県北ジオパーク

Keywords: SNS, facebook, geopark, North Ibaraki Geopark